

平成 30 年 11 月 20 日

## 若手研究者海外挑戦プログラム報告書

独立行政法人日本学術振興会 理事長 殿

受付番号 201880039

氏 名 竹部 春樹

(氏名は必ず自署すること)

若手研究者海外挑戦プログラムによる派遣を終了しましたので、下記のとおり報告いたします。  
なお、下記記載の内容については相違ありません。

### 記

1. 派遣先：都市名 ケンブリッジ (国名 米国)
2. 研究課題名 (和文) : ジョン・アップダイクの原稿調査を通じた文体研究
3. 派遣期間：平成 30 年 8 月 1 日 ~ 平成 30 年 10 月 31 日 ( 92 日間)
4. 受入機関名・部局名：ハーバード大学
5. 派遣先で従事した研究内容と研究状況 (1/2 ページ程度を目安に記入すること)

派遣先では Houghton 図書館に所蔵されているジョン・アップダイクの原稿を精査した。アップダイクは 20 世紀米国を代表する作家と目される一方で、その文学的重要性が十分に認められているとは言いがたい。したがって本研究では、特に初期作品の創作・改訂の過程に原稿を通じたアプローチを試み、この稀代の名文家の文体を実証的に分析した。

研究状況としては、渡航前に計画していたよりも多くの草稿・原稿の調査が達成できた。また、作家が創作に使用したとおぼしき膨大な資料によって、作品の着想や文章の成形の過程を資料的に裏づけることができた点は、特に意義ぶかい結果である。

予期せぬ成果として、作家がみずから書き込みをほどこした蔵書にも (部分的に) アクセスすることができた。そこに含まれていた数多くの興味ぶかいメモは、さらなる研究の広がり期待させる。

6. 研究成果発表等の見通し及び今後の研究計画の方向性 (1/2 ページ程度を目安に記入すること)

今回の派遣で得られた研究成果は2019年以降に国内外の学術誌・学会で発表していく予定である。具体的には、2018年度中に論文投稿1本、2019年度には学会発表の申し込みを1件、論文投稿を1-2本を予定している。それ以降の具体的な予定は決まっていないが、今回の調査結果に基づいてさらに数本の論文を発表できるだろうと考えている。

今回の計画は、アップダイクのキャリアのうち特定の期間を範囲とするものであったが、派遣先で資料を分析するうちに、作品・文体の形成をもう少し広い時間枠の中で考察する必要性を認識した。そのため、今回の調査で得られた膨大な資料の分析を続けるとともに、今回は調査の手が回らなかった時期の資料や別のアーカイブに所蔵されている資料にも、別の機会を得てアクセスしたいと考えている。

また、今回は文体研究と銘打って、どちらかといえば作品を内的に分析する方法を採ることが多かったが、原稿類を調べるうちに、外的な要素（たとえば出版社や作家の家族による作品への関与）が無視できないほどに重要であるということを確認した。したがって今後は、創作・改訂過程における（作家以外による）作品への干渉という観点を大きく採り入れていく。

7. 本プログラムに採用されたことで得られたこと (1/2 ページ程度を目安に記入すること)

まず何よりも、アーカイブに赴いて未出版資料を閲覧・記録できたということが、きわめて重要な成果であった。主にはこのために渡航・滞在費を支給していただいたことになるが、今後の研究上の利用価値を考えると、金銭で測れる以上の値打ちがあったと考える。

アーカイブ調査の基本を学ぶことができた点も意義ぶかかった。司書 Susan Halpert 氏をはじめとして Houghton 図書館のスタッフに教えていただいた調査の基本は、ふたたび Houghton 図書館を訪れるときはもちろん、今後それ以外のアーカイブで調査を行なうときにも有用だろうと考えている。

また、ハーバード大学の図書館が利用できたことも、現地で研究を進める上で役に立った。日本では入手できなかつたり入手が困難だつたりする文献などにもアクセスすることができた。